

クラス番号	929	担当教員名	辻村 大生
テーマ	「知多娘。」というキャラクターたちと知多地域のまちづくり		
ゼミナール概要			
目的、内容、方法等：			
皆さんは、「知多みるく」もしくは「知多娘。」というキャラクターの存在をご存じだろうか？ちた地域若者サポートステーションのPRキャラクターとして2009年に登場した知多半島のイメージキャラクターであり、いわゆる“萌え系”キャラクターである。これを仕掛けたのは若者就労支援を目的として活動するNPOである。 近年では、「萌えおこし」とも言われ、地域活性化やまちづくりをめぐる情報を発信していくとき、キャラクター設定というのは一つのツールとなっている。それだけではなく、こうした萌え系キャラという存在を通して、地域社会の新たな文化的意味が創出されている。 私たちは、そうしたキャラクターと出会う時、そうしたキャラクターの発信する意味を受容し、サブカルチャーとして消費している。 本ゼミナールでは、知多娘。やそれをめぐる様々な人びとの営みを具体的に調査することを通じて、1) 萌えというサブカルチャーと地域社会とはいかに繋がっているのか、そうしたサブカルチャーは知多地域のまちづくりや地域活性化とどのような関係にあるのかを探っていくことを目的とする。 本ゼミナールの内容は、おおよそ以下の3点である。1) 文化研究の一つの方法、視点である「カルチュラル・スタディーズ」や周辺領域の文献を読み、具体的な現場で起こっていることを理解するためのツールを身につける。2) 知多娘。に関するメディアが発信する情報、資料を収集・整理する。3) イベントやまちづくりの現場に出向いたり、関係する人々、組織などのインタビュー調査を実施する。 本ゼミナールでは、上記テーマで進めていくために、方法としてカルチュラル・スタディーズという手法を用いていく。			
授業計画：（おおよその案）			
・ 年間を通じて、おおよそ1ヶ月に1、2回ほどは、カルチュラル・スタディーズの文献講読（＊講読文献は担当教員が用意します）			
4～6月：知多娘。に関する情報収集と整理。およびキャラクターとまちづくりに関する文献の収集整理			
7月：研究視点、研究仮説に関するディスカッションとまとめ			
9～11月：フィールドワーク（まちづくりの現場や関連する組織へのインタビュー調査など）			
12～1月：分析や調査のまとめ			
担当教員からのメッセージ			
自分たちが住んでいる知多半島という地域の活性化やまちづくりに関心がある方をお待ちしております。 なお、本ゼミナールでは、萌え系キャラクターを扱いますが、ただ単にそういったキャラクターが好きだというだけでなく、そういうものを“真面目に”文化研究をしてみたいという方をお待ちしております。 本ゼミナールでは、実際の現場を調査するフィールドワークを重視しますので、授業時間外の活動もあることに留意してください。			